

操作的な活動を通して、ものの数をかぞえる指導 ～様々な具体物を使った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2 4 1 1
学習グループ の実態	- 小学部2学年（4名） 2名の児童は20位までの数の数唱ができ、10までの数の数字と物の数が分かり、20位までの数をだいたい数えることができる。他2名の児童は100位までの数唱ができ、10までの数字の2つの数の違いが分かり、10の補数が分かる。 〇こずつ分ける操作を繰り返したことで、「8こと8こと8こで24個だね。」と発言する児童もいる。		
単元(題材)名	「かぞえよう」		
学習指導要領 の内容	算数科／小学部2段階 A数と計算 ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動 (ア) ①㊦㊵ (イ) ㊶		
単元(題材)の 目 標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	ものの集まりと対応して、数詞が分かる。ものの集まりや数詞と対応して数字が分かる。個数を正しく数えたり書き表したりすることができる。【Aア(ア)①㊦㊵】	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かそうとする。【Aイ(イ)㊶】	数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。 【小学部2段階A目標ウ】
単元(題材)の 計 画	総時数 19 時間 1 かぞえよう 5 までのかず（数唱） (2 時間) 2 かぞえよう 10 までの数（数唱） (3 時間) 3 カードづくり（ものと数詞と数字の合致） (2 時間) 4 磁石を使っにかぞえよう（半具体物への置き換え） (6 時間) 5 よくかぞえよう（正しく数える） (6 時間)		
指導の実際	- 集中の持続時間を考慮し、マグネットやブロック、ビーズ、絵カードなどを活用し、タイマーで時間を決めてゲーム性をもたせ、5分～10分の活動をいくつか組み合わせさせて指導した。 10までの数の数字を正しく読むことはできるが、数量とのつながりができていない児童について、カードづくりを単元に入れ、数字を貼ったカードの裏に5ずつ2段にした枠を作り、数字とシールの数を教師と数唱し確認しながら貼る活動を取り入れた。正しく貼れるようになった後、10までの数の数唱をカードを指さししながら確認した。 - 具体物を半具体物に置き換えて数える学習では、教師がやり方を提示する際に、マグネットを「10までの数シート」に並べることで数えやすくなることが伝わるようにした。 - 指数字の写真カードを提示して数える学習では、片手の指だけを数えてしまう児童がいた際に、教師と一緒に指さしをして全部の指の数を数えることで、写真の指に注目できるようにした。		